

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100324		
法人名	特定非営利活動法人 しあわせサービス		
事業所名	グループホーム ゆめの丘		
所在地	島根県松江市美保関町北浦624-1		
自己評価作成日	平成29年3月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	平成29年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれた立地条件を活かし、年間行事等で季節感や生活感を感じて頂けるよう支援しています。また、行事を通して地域交流を図れるよう支援しています。(春の桜の花見、夏場の地元での海開き参加、施設での地域の方も招いたそうめん流し、秋のいも煮会や地域の保育園児を招いた敬老会、年末のそば打ち、しめ縄作り、年始の地域の保育園でのお茶会等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺を山に囲まれた自然環境のよいところにホームはあります。地域との付き合いを大切にされそうめん流し・秋の芋煮会・地域の保育園等交流を深めておられます。加齢と共に身体状況の低下や認知症の進行もありできることが少なくなってきた方もありますが、理事長、管理者、職員は理念のもと尊厳を大切にされ支援されています。利用者ができることや役割を持ち生活されることを常に意識し支援されています。利用者の会話や表情も明るくまた、介助される方もゆっくり自分のペースでケアを受けられておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に理念を掲示し、毎日朝礼時に唱和し、職員全体で共有、実践につなげている。特に、尊厳については、虐待防止への研修、ミーティングで話し合っている。	施設内、事務室に理念を掲示されている。毎朝の朝礼で理念の唱和している。利用者の尊厳を大切にされ職員会やカンファレンスで話し合われている。虐待防止の研修に参加しミーティングで尊厳について話し合いをされ実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事への参加、西保育園園児との交流、そうめん流しでの地区の小学生、保護者参加など地域の方との交流を図っている。	海開きのとき利用者、職員が地引網に参加され地域の方と交流された。ボランティアでそば打ち、フラダンス等来られた。夏のそうめん流し、秋の芋煮会では地域の方を招待されぎやかな光景が見られた。西保育園園児のお手前でお抹茶を飲まれた。美保関中学生の職場体験では三味線を披露され喜ばれた。管理者は美保関中学校に行かれ認知症やグループホームを理解してもらうよう話をされた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記行事への参加や民生委員・自治会等を通じ、認知症の方の理解を深めていただくよう努力している、また、美保関中へ出向き、グループホームを理解してもらうと共に、支援方法などを紹介した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催し、利用者様の状況報告等行い、委員の意見等を施設の運営やサービスに活かしている。	2ヶ月に1回開催されている。利用者状況、活動状況の報告。意見交換が行われた。地区駐在所の駐在さんが参加され防犯等について話された。	運営推進会議を行事の時に開催され委員さんに利用者の様子、行動や職員のケアを見てもらいホームをよりよく知ってもらうことも良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にし職員や地域包括センターに参加して頂き、情報交換を行い、協力関係を築くよう止めている。	運営推進会議に市介護保険課職員、美保の関町地域支援センター職員参加され情報交換を行われ協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず自由にでいる出来るようにしている。施設内、外部講習を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中玄関は施錠せず自由に出入りが出来るようにされている。施設内、外部研修に参加され職員は理解され身体拘束をしないケアに取り組まれている。家族、利用者への言葉使いに気をつけケアや対応をされている。施設長、管理者は都度指導されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部研修に於いて学び、虐待が見過ごされる事がないよう注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修に於いて学び、必要に応じて、関係者と話し合いや相談に応じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者様、家族様に十分に説明を行い、理解、納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置、運営推進会議の意見、面会の際の要望など運営に反映させている。	運営推進会議の意見や家族に面会時、電話、ケアプラン見直し時に意見、要望を聞いている。遠方の家族にはゆめゆめ通信や手紙で意見要望を聞かれている。	利用者、家族、担当職員が一緒に外出をし和やかに話や相談ができるような機会を持たれ、互いの信頼関係を深められる事も良いと思います
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや個別の面談で集約した意見・要望を運営に反映させている。	朝・夕の申し送り持や毎日のミーティングで利用者の様子、行動を話し合いケアに活かされている。ケアマネが個別面談を行い意見や提案を聞き取っている。月1回の職員会議やミーティングでケアの話し合いや意見、提案を反映されている。職員は代表者や管理者と話しがしやすいと話された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の引き上げ、時間外労働の抑制等を図り、職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常の業務を通じての介護技術の向上や法人内外の研修に参加している。パート職員は正社員への登用制度設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加し、職員同士が情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	丁寧に傾聴し、本人の希望を出来るだけ叶えられるように努めている、言いやすい関係となるよう特に初期は気を付けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧に説明し、家族の希望を叶えられるように努めている、特に初期には関係性に気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態を見極め、それを踏まえて家族の要望を聞き、適切な支援となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者であるが、グループホームで共に生活する方と言う意識も忘れずに、声を掛け手伝いをして頂く事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族に毎月、機関誌を送付し、利用者様の様子を伝え、必要に応じて面会を促す等、本人を施設と共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方の面会や知り合いの方の葬儀に出席する等、また、墓参りに行ったり、人や場所との関係が途切れない様支援に努めている。	親戚の方の面会。知り合いの方の葬儀に職員と一緒に出席された。墓参りに行かれたり、家族と一緒に自宅を見に行かれた。利用者の希望を聞きながら馴染みの人や場所を忘れないよう支援されている。	昔の写真や映像を使用しての「回想法」も良いと思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されている方がいないよう日々の生活を通じて、利用者の動向に常に気を配り、利用者同士の良好な関わりとなるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて経過観察し、支援している。相談があった場合は誠意を持って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は、御家族からの情報を得よう努めている。	アセスメント、カンファレンス、家族の聞き取り、利用者の会話から希望、意向の把握をしケアプランに取りいれている。困難な方は話題を提供したり家族から情報をもらうなど職員で検討されている。	思い・意向。希望より生きがいに繋がれるように心掛けられると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前のサービス内容、生活歴等について、ご本人、ご家族、事業所から情報を収集し、経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で様子、状態等を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員の意見を踏まえ、ご本人の意志を尊重し、その人らしい生活を送って頂くよう計画を作成している。	利用者、家族、職員で意向、希望を聞き担当者会議等で話し合わせその人らしく生活を送っていただくことを取り上げケアプランを作成されている。モニタリング毎月・評価、見直しは6ヶ月に1回実施されている。変化があればカンファレンス等行われケアプランの見直しをされている。	記録はその時の様子がイメージできるように記載されると良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録内容を職員間で情報共有し、話し合いながら、日常の介護や介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現況を見極め、課題が生じたらその都度カンファレンスを行い、支援内容を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交流事業、外出事業を通じて、地域資源を把握し、日々の暮らしに役立っている。地域の理容院を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は希望とし、事業所と連携を密にし、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望されるかかりつけ医とされている。協力医療機関をかかりつけ医とされる利用者が殆どで、受診・往診が行われている。往診・月1回。変化あれば受診される。受診は家族で行われる。車椅子利用者は職員が同行受診される。眼科・歯科・整形外科、皮膚科・総合病院等の受診は家族が対応される。結果は介護記録や職員申し送りノートに記載され把握できる。管理者・看護師・相談員が医療機関との連携を取り支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、情報を常に把握し、早期の異常発見に努め、適宜看護師に相談、指示を仰ぎ、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に医療機関へ情報提供し、安心して治療が出来るよう支援している。病院関係者とも連絡を密にし、より良いケアにつながるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から重度化について家族様と話し合い、今後の方針を一緒に考えている。	入所時に重度化や終末期に向けた方針を説明される。家族、利用者に重度化について早い段階から説明を行い家族、かかりつけ医、管理者、職員と一緒に方針を話し合われる。医療行為が必要、食事が取れなくなった場合は病院へ相談される。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署の指導の下、救急救命講習を受講、緊急時の対応について学び、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害、地震等の発生時の避難訓練を通じて、職員の危機管理意識の向上を図っている。	年2回以上、火災・水害・地震等の避難訓練を実施されている。防災訓練を通じて職員の意識向上を図っておられる。居室の名札の裏に「避難済」が貼ってあり、災害時避難された時名札を裏返すことで利用者の避難が分かるようされている。備蓄は水、缶詰、おかゆなど準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、尊重し、丁寧な言葉掛け、対応を心掛けている。しっせつ兄で接遇の研修も行っている。	施設内で接遇研修を行い言葉遣いについて話し合いケアを行っている。施設長、管理者は接遇について都度指導をしている。入浴時は浴室のドアは常に閉める。排泄時、更衣の時はドアを閉めて支援を行いプライバシーを損ねない対応をされている。居室にトイレがあるので、自然な声掛けでトイレ誘導ができています。入浴時同性介助にも対応されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、ご本人の希望や思いを聞き、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様のペースに合わせ、日々の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができるよう服装やお化粧の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、盛り付け等、一人ひとりの力を活かしながら、職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。	調理の下ごしらえ、盆拭き、食器洗いを職員と共に行っている。調理の様子を見て調理方法を教えて下さる方もおられる。誕生会、行事の時にも、一緒に調理の手伝いをされる。家族と外食される方もおられる。ゆめの丘菜園で野菜等作られ食材にされる。業者が配達してもらいますが、ホームで調理をされる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養は栄養士により、管理、バランスのとれた食事の提供を心掛けている。水分が取れない方は、好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中夜間ともトイレ案内が出来るよう自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックを活用し居室のトイレと併用トイレを利用しながら個々に沿った排泄支援が行われている。足元不安定な方は夜間ポータブルトイレを使用されている。利用者の排泄用品はホームで業者利用で購入されている。同一用品を使用の為尿漏れ、パッドの枚数使用が減ってきた利用者もおられ料金負担の軽減につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内を散歩して頂いたり、レクリエーションで体を動かし、食事面では、牛乳、水分摂取などで、個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人に声掛けを行い、入浴されない場合には、時間や日を改めたり、声掛けを工夫したりして、個々に応じた支援をしている。	週2回以上入浴頂いており、午後入浴となっている。個浴入浴対応され、二人介助の必要な方はシャワーチェアを使用され浴支援が行われている。座位式機械浴があり状態に合わせた入浴ができる。拒否の方は声掛けや時間、日にちの変更、職員変更で希望入浴をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は、事務所で過ごして頂いたり、その時の状況に応じて、安心して、眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイルにつづり、職員全員で共有している。症状の観察にも努め、症状の変化が見られれば、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ等、その方に応じた役割を持って頂いている。行事、レクリエーション等で日々の気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩、花見等外出支援をしている。また、ご家族のご協力により外出される方もおられる。	施設周辺の散歩を行っている。買い物はホームの周辺にはスーパーがないので境港のスーパーや本庄道の駅に買い物外出をされている。ドライブや花見、季節の行事で外出を楽しまれている。畑に植えている野菜の様子をみに出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持しておられる。外出や買い物の際は、議地震で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族等に、自ら電話されたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や、飾りつけ等、居心地よいと思っ頂けるような空間作りに努めている。	廊下の壁には絵画や利用者の作品が飾ってある。温度や照明も、季節に合った調整がされ安心な生活が送れる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、談話室で利用者様同志では、居室へ相互訪問もされている。また、玄関先や庭にベンチを置き、思い思いにくつろげる環境作りに工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物の持ち込みを進めている。ご本人が落ち着いて過ごされるよう支援している。	利用者一人ひとりが自宅で使用されていた馴染みの物を持ち込まれたり、家族の写真を飾るなど打ちついて過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋建てで、施設内部の手摺りにつかまりながら、自立歩行を行いやすくしている。居室のトイレは夜間の安全自立に役立つ。		